

過程	子供の主体的な問題解決の側面から			社会生活の確かな理解の側面から	
	想定される主な「問い」	子供に働かせたい見方・考え方		見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
つかむ	＜学習問題をつかむ問い＞ 平安時代の武士はどのような人々だったのだろう。	←	武士の暮らしの様子に着目して	→ ・武士の館の想像図 ・武士の 1 日のスケジュール（資料集） ・平治物語絵巻	貴族の護衛などをし、戦いに備える暮らしをしていた武士は、平治の乱の頃には貴族を凌ぐほど台頭した。
学習問題	武士は、どのように力を高めていったのだろう。				
しらべる	＜しらべる問い＞ 平清盛は、どのようにして武士の力を高めたのだろう。	←	平清盛の業績に着目して	→ ・平氏が権力を得る過程の資料（教科書） ・源平の戦いについての資料（教科書）	平清盛は武力と貿易で得た富で力をつけ、貴族の中でも高い位に就いた。しかし、源義経の活躍した源平の戦いで平氏は滅ぼされた。
	源頼朝は、どのようにして武士の力を高めたのだろう。	←	源頼朝の業績に着目して	→ ・鎌倉の土地の様子 ・ご恩と奉公関係図	源頼朝は守護・地頭を全国に設置し、鎌倉に幕府を開いた。土地を仲立ちとすることで、武士が朝廷を凌ぐ力を得た。
	北条時宗はどのようにして、元と戦ったのだろう。	←	北条時宗の業績に着目して	→ ・蒙古襲来絵詞 ・元との戦いの様子（教科書・資料集）	北条時宗は元との戦いで全国の御家人を動員したり、防塁などで守りを整えたりすることで日本を守ることになった。
まとめる	＜特色や意味を考える問い＞ 平清盛・源頼朝・北条時宗はどのように武士の力を高め、世の中はどう変化したのだろう。	←	平清盛、源頼朝、北条時宗の取組と世の中の変化を関連付けて考えて	→ ・平清盛、源頼朝、北条時宗の業績をまとめたワークシート	平清盛は武力と貿易で得た富を背景に武士の力を高め、太政大臣の位に就いた。源頼朝は義経と共に、源平の戦いで平氏を倒し、鎌倉に幕府を開いた。また、ご恩と奉公の関係などの制度もつくすることで朝廷を凌ぐ力を得た。後の北条時宗は、元との戦いで、全国の武士の力を集めることで元を退けることができた。鎌倉に幕府が開かれた頃、武士による政治が始まった。

② 本時の学習（3/5）：令和7年度に研究授業で行った時間の本時案

（1）ねらい

鎌倉幕府が開かれた場所や源頼朝の業績に関する資料を調べ、頼朝が幕府を開き、武士による政治の仕組みを作り上げたことを理解する。

（2）展 開

	○主な学習活動 ●評価につながる学習活動 ・予想される子供の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
つかむ	○学習してきたことを振り返る ・武士の平清盛が貴族の頂点に立ち平氏が政治を行った。 ・平氏に対する不満が高まって源頼朝に倒されてしまった。 ○本時で調べることを確認する。 源頼朝は、どのようにして武士の力を高めたのだろう。	◎学習ノート ◎疑問シート □疑問シートを活用しながら学習の見通しをもてるようにする。
しらべる	○源頼朝の働きを中心に、鎌倉幕府が始まったところに取り組んだことや様子を調べる。 ・頼朝は山と海に囲まれた守りやすい鎌倉に幕府を開き、そこで政治を行った。 ・有力な御家人を守護・地頭として全国に配置した。 ・御家人がもつ土地を認め、活躍した御家人に新しい領地を与える「ご恩」があった。 ・御家人は将軍を守ることや、都や鎌倉を警護する「奉公」を行った。 ○調べた事実をもとに「なぜ、頼朝が始めた武士の政治はうまくいったのだろうか」について考える。 ・戦いが起こっても守りやすい場所に幕府を開いた。 ・御家人を守護地頭にすることで全国に影響力をもった。 ・土地を使った、ご恩と奉公の関係で、多くの武士が幕府の政治を支えるようになった。 ・源氏だけではなく、頼朝に味方する多くの武士がうれしい制度を作った。	◎鎌倉の土地の様子 ◎ご恩と奉公 関係図 ◎頼朝の取組（教科書・資料集） ◎動画資料（NHK for School） ・鎌倉街道と切通し ・源頼朝～ご恩と奉公～ □児童が自分の予想や疑問をもとに資料を選択しながら調べること、主体的に調べ学習に取り組めるようにする。 □調べた事実を関連付けながら考えることで、頼朝が武士中心の政治を行うために様々な取組を行ったことを気付き、人物の思いや働きと、社会の変化について考えを深められるようにする。
まとめる	●頼朝の吹き出しに学習のまとめを記述する。 ・私（源頼朝）は、武士による政治の実現を目指し、全国に守護・地頭を設置したり、京都から離れていて守りやすい鎌倉に幕府を開いたり、御家人たちと御恩と奉公の関係を築いたりしたのだ。その結果、たくさんの武士に支えてもらえる幕府が朝廷よりも強い力を手に入れ、私が死んだ後も武士が中心になる政治が続いていったのだ。	【知技①】 ノートの記述から「源頼朝が鎌倉に幕府を開き、御恩と奉公といった武士による政治の仕組みを作り上げたことを理解しているか」を評価する。

③ 本実践の主な手立て

調べる時間に人物の働きを通して、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察するため

実践① 学習の見通しを立てられる導入の工夫		
この時代のあらまし	でこと	
1167年	平清盛が武士として初めて、朝廷の位階のトップである左大臣になる	子供たちが人物の立場や思いに寄り添いながら調べられるように……
1181年 1185年	平清盛が亡くなる	
1192年	源頼朝・後醍醐天皇を中心とした武士が平氏を滅亡させる	↓ 人物名を明確にした導入の年表
1221年	武士の源頼朝が全国に守護・地頭という役職を置く	
1274年	鎌倉と朝廷が戦う「蒙古の乱」が起こる	↓ 人物名を明確にした導入の年表
1281年	初めてきた元と北条時宗を中心とした武士が戦う	
朝廷：天皇や貴族が国の政治を行うところ 鎌倉：武士が国の政治を行うところ		

①学習の見通しを立てられる導入の工夫

年表の中の一つ一つの出来事に人物名が明確に書かれているようにしました。その結果、導入の段階から、子供たちの中に、様々な社会的事象が人物によって引き起こされていることを意識しながら学習に取り組むことができました。

実践① 学習問題や調べる問いの工夫		
つかむ	学習問題	調べる
平 安 時 代 の 武 士 は ど の よ う な 人 々 だ っ た の だ ろ う 。①	武士はどのような力をもっているのだろうか。②	平清盛は、どのような力をもっているのだろうか。③
		源頼朝は、どのような力をもっているのだろうか。④
		北条時宗は、どのような力をもっているのだろうか。⑤
		平清盛・源頼朝・北条時宗は、どのような力をもっているのだろうか。⑥

②学習問題や調べる問いの工夫

学習問題や調べる問いの工夫をし、人物を主語に問いを構成しました。

調べる対象を明確にしたことで子供達はその人物の立場や考えを共感的に理解しながら調べることができました。

実践① 調べた社会的事象を人物の視点からまとめる工夫	
【例：頼朝の学習で】	
- 平氏との戦いに頼朝が勝つ - 全国に守護や地頭を設置したことで、武士による政治の体制を整える - 征夷大將軍に任命され、鎌倉に幕府を開く - 土地を仲立ちとした御恩と奉公の関係により、多くの武士が幕府に従うようになる - 源氏の將軍が途絶えた後も、武士の政治が続き、ルールも作られた	
↓ 人物の吹き出しにまとめる！	
わしは……	のじゃ！

③調べた社会的事象を人物の視点からまとめる工夫

まとめを人物の吹き出しにまとめるという手立てをとることで、子供が人物の視点を通して社会的事象をまとめられるようにしました。

吹き出しにすることで、事実をつなげた文章ではなく人物の想いをもとにしたまとめを書くことができました。

④ 児童の吹き出しの例



源頼朝 (1147～1199年)

わしは平氏を倒した後、守護と地頭を全国に設置したり、武士をまとめる地位についたりして支配を固めた。
わしが死んだあと、朝廷との戦いになったが、御恩と奉公の関係で武士をまとめていたおかげで勝つことができた。その後は法も作られ、武士の世は安泰じゃ！



北条時宗 (1251～1284年)

元という帝国を相手に戦うのは苦戦したが、頼朝公から続く御恩と奉公の関係があったからこそ勝てた……のもあるが、やはり私がえらくて石塁を作るといのかしこい選択ができたから勝ったように思う。敵はてつはうや集団戦法できてギリギリだったが、神が味方してくれたのだ！

過程	子供の主体的な問題解決の側面から			社会生活の確かな理解の側面から	
	想定される主な「問い」	子供に働かせたい見方・考え方		見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
つかむ	＜学習問題をつかむ問い＞ 豊臣秀吉がなくなった後、世の中はどのようなになっていったのだろう。	←	徳川家康や徳川家光の業績や意図に着目して	→ ・等尺年表(鎌倉時代と江戸時代) ・江戸図屏風 ・国内の戦いの数比較資料	関ヶ原の戦い後、徳川家康が開いた江戸幕府は約260年続き、江戸図屏風には平和な城下町の様子が描かれた。また、江戸時代は戦いの数が少ない時代だった。
学習問題	江戸幕府は、幕府による政治を長く続けるためにどのような政策を行ったのだろう。				
しらべる	＜しらべる問い＞ 徳川家康は江戸幕府を開き、どのような政策をとったのだろう。	←	大名の配置に着目して	→ ・主な大名の配置 ・江戸のまちの広がり ・一国一城令	徳川家康は一国一城令や大名の配置、武家諸法度によって大名を統制し、長く続く幕府の仕組みを作った。
	徳川家光は大名に対してどのような政策をとったのだろう	←	参勤交代に着目して	→ ・参勤交代にかかった日数 ・加賀藩の参勤交代	江戸幕府は参勤交代により全国の大名を交代で江戸の屋敷に住まわせ、大名に費用を負担させ力を弱めることで権力を安定させた。
	徳川家光は様々な身分の人々に対してどのような政策をとったのだろう。	←	身分制に着目して	→ ・様々な身分のくらし	幕府は年貢を確実に納めさせ、反乱が起らないように身分制度をつくって人々を治めていった。
	徳川家光は外国に対してどのような政策をとったのだろう。	←	外国との関わりに着目して	→ ・絵踏み ・島原、天草一揆 ・出島 ・朝鮮通信使	キリスト教の禁止、また鎖国により、人々が幕府の命令に従わなくなるのを防いだ。また、オランダや中国、朝鮮との貿易の利益は幕府が独占できるようにした。
	大名や百姓にとって、幕府の政策はどのようなものだったのだろう。	←	大名や百姓などの立場に着目して	→ ・「しらべる」段階で用いた資料	幕府は人々の負担の上に成り立ちながらも、平和と安定を守るしくみをつくっていた
まとめる	＜特色や意味を考える問い＞ 江戸幕府は、幕府による政治を長く続けるためにどのような政策を行ったのだろう。	←	歴史的対象を関連付けたり総合したりして	→ ・「しらべる」段階で用いた資料 ・江戸図屏風	江戸幕府は参勤交代や家族を江戸に住まわせ大名を従わせる仕組みを作った。また、身分を定め人々の反乱を防ぎ、年貢を確実に納めさせた。さらに鎖国下でも幕府だけは貿易で利益を得るようにした。つまり、幕府は江戸の町や幕府に力が集中する仕組みを作ったので、武士の政治が安定した。

2 本時の学習（7/8）：令和7年度に研究授業で行った時間の本時案

（1）ねらい

大名や百姓の立場で幕府の政策を調べ見直し、人々の生活の安定につながっていたことを理解する。

（2）展 開

	○主な学習活動 ●評価につながる学習活動 ・予想される子供の反応	◎資料 □指導上の留意点 【評価】
つかむ	○前時の学習を振り返る。 ○これまでの学習の児童の意見を提示し、新たな問いを立てる。 ・大名は参勤交代で大変そう。 ・江戸の町がにぎやかになった。	□スプレッドシートやノートを見ながら、前時に作成したまとめを確認する。 ◎児童の意見
	大名や百姓にとって、幕府の政策はどのようなものだったのだろう。	
しらべる	○既習事項を振り返り、大名や百姓の立場を選び、その立場からの見方や感じたことをワークシートに記述する。 ・参勤交代は大変だけど、江戸から持ち帰る文化や学問などで江戸から遠い地域も発展するからいい点もあった。 ・五人組はいやだけど、困った時に助けてもらったり、農業に専念できたりしたようになったことはよかった。 ○グループで考えを交流する。 ・参勤交代は費用がかかるけど、五街道の整備や宿場町の発展といういいこともあったみたい。 ・五人組は罰があるから怖いけど、助け合う仕組みでもあるみたい。農業に専念すればいいから、前の時代と比べると安心できるみたい。 ○学級全体で考えを交流し、人々にとっての幕府の政策の意図について、話し合う。 ・幕府は全国を支配するために、人々のくらしや身分に対する政策を行ったが、それは幕府のためだけでなく、人々が安心して生活できるようにするためであった。	□交流しやすいようにグループで「大名」「百姓」の立場を選択するよう促す。 □大名や百姓の立場で考えることで、なぜ幕府がそのような政策をとったのかという視点を補足し、考えられるようにする。 □現代と比べてではなく、前の時代(鎌倉時代や戦国時代)と比べてどのような変化があったのかを考えられるようにする。 □様々な身分の人々を統制する政策によって江戸幕府による政治が長く続いたことに気付くように、1つの政策をなくすとどうなるのかなど提案する。
まとめる	●学習のまとめをする。 ・江戸幕府は、参勤交代や鎖国などのしくみを通して、人々のくらしを安定させることを目指していた。大名にとっては出費が多く大変な面もあったが、参勤交代によって幕府の力を示し、国全体の平和を保つことができた。また、百姓や町人にとっても、戦がなくなり、安心してくらしを続けられるようになった。つまり、幕府は人々の負担の上に成り立ちながらも、平和と安定を守るしくみをつくっていたといえる。	□支援を要する児童には、書き出し例や穴埋めになった例を提示して支援する。 【知技②】ノートやタブレットの記述から「参勤交代や身分制度などの幕府の政策について、改めて調べ、必要な情報を集め、読み取り、江戸幕府の政策や社会の様子を理解文にまとめて理解できているか」を評価する。

実践② 江戸幕府と政治の安定 子供のまとめ

第3時のまとめより

私、徳川家康は、三河の小さな大名じゃった。勢力を伸ばしていき、戦いに優れた武将として知られ、征夷大將軍に任命されると、江戸幕府を中心に全国支配を確かなものにし、**古くからの家来を役職につけ**幕府による支配体制を整えたり、**一国一城令**、**武家諸法度**を定めたり、**朱印状をつかって貿易**をうまく行ったりしたんじゃ。

第4時のまとめより

私、徳川家光は、武家諸法度に大名が領地と江戸を行き来する制度、**「参勤交代」**を定めたんだ。一年おきに江戸の屋敷に住ませたんだ。それによって、様々な街道もでき、宿場町も発展し、江戸にある学問や文化も遠い地域に親しまれるようになったのだ！！この**「参勤交代」**という最高の制度によって、地方文化の発展につながったんだぜ。

第5時のまとめより

私、徳川家光は、江戸の社会を武士、百姓や町人など、**様々な身分の人々によって構成した**んだ。武士、町人、百姓の住む場所を別々にすることで、下の身分の人々が抵抗できないようにしたんだ。百姓には5戸を1組とした**「五人組」**をつくったんだ。農具も進化させたりもしてね。こうして、百姓はもっと農産物を盛んに作ることができるようになったんだ。

第6時のまとめより

私、徳川家光は、幕府の支配に不都合な**キリスト教を禁止**し、**宣教師や貿易船の出入りを制限**したり、人々が海外から帰ってくことを禁止したりする**「鎖国」**を行ったんだ。しかし、それによってキリスト教信者たちを中心に、一揆が起こったんだ。幕府がキリスト教を取り締まったことで、幕府の支配はさらに強く、国内の平和も続くという最高の結果になったんだ。

実践② 江戸幕府と政治の安定 本時の展開

